

## 第6回 仁淀川シンポジウム

# 仁淀ブルーを後世に ～知ってみよう！山と川

レポート



### ❖日時・会場

日時：平成29年2月4日(土) 午後1時から午後4時15分

会場：グランディール土佐市本店 参加者数：100名

### ❖主催団体等

主催：仁淀川清流保全推進協議会、高知県 共催：仁淀川流域交流会議

協賛：アサヒビール株式会社

### ❖テーマ「仁淀ブルーを後世に ～知ってみよう！山と川」

流域で清流保全活動に取り組まれる方々の交流の場として始まった「仁淀川シンポジウム」は、今回で第6回となりました。今年度は、昨年実施したワークショップで出た意見の中から実施できていない部分について、どうすればいいか皆様と意見交換を行いました。

## はじめに

「仁淀川シンポジウム」は、流域で清流保全活動に取り組まれる方々の交流の場として平成23年度から始まり、6回目になる今回は「仁淀ブルーを後世に ～知ってみよう!山と川」と題し、平成29年2月4日(土)に開催しました。

第1部では、土佐市立新居小学校の3年生から「仁淀川とわたしたちの暮らし」と題して仁淀川での環境学習や生活とのつながりについて学習した取り組みをご紹介します。また、事務局から昨年のワークショップで話し合った内容について概要報告を行い、第2部では昨年実施したワークショップについて、更に掘り下げることが目的に「知ってみよう!山と川」をキーワードに自分たちに何ができるのかを話し合いました。

このたび、シンポジウムにご参加いただけなかった方にも内容をお伝えするべく、概要をまとめた報告書を作成しましたので、皆様の今後の活動の一助となりましたら幸いです。

会場となりました土佐市及び流域の市町村、関係者の皆様には多大なご支援を頂きましたことをこの場を借りて御礼申し上げます。

平成29年3月吉日

仁淀川清流保全推進協議会 会長 石川 妙子

### プログラム

- ① 開会あいさつ ..... 仁淀川清流保全推進協議会 石川 妙子 会長  
..... 仁淀川流域交流会議 板原 啓文 会長

### ② 第1部「活動紹介」

- ❖ 「仁淀川とわたしたちの暮らし」 ..... 土佐市立新居小学校3年生  
❖ 「昨年度のワークショップで出た意見について」 ..... 仁淀川清流保全推進協議会 事務局

### ③ 第2部「ワークショップ」

#### ❖ 川の部(子どもたちを川へ呼び戻す)

NPO法人環境の杜こうち  
によど自然素材等活用研究会  
公益財団法人四万十川財団  
仁淀川リバーキーパー

兼松 方彦 理事長  
井上 光夫 代表  
神田 修 事務局長  
石川 妙子 氏

#### ❖ 山の部(美しい環境・景観の保全)

NPO法人環境の杜こうち  
四国森林管理局  
森林総合研究所四国支所  
高知県林業振興・環境部環境共生課

石川 貴洋 事務局長  
横山 敬吾 森林施業調整官  
酒井 敦 氏  
三好 一樹 課長補佐

### ④ ワークショップまとめ

- ⑤ 閉会あいさつ ..... 仁淀川清流保全推進協議会 井上 光夫 副会長

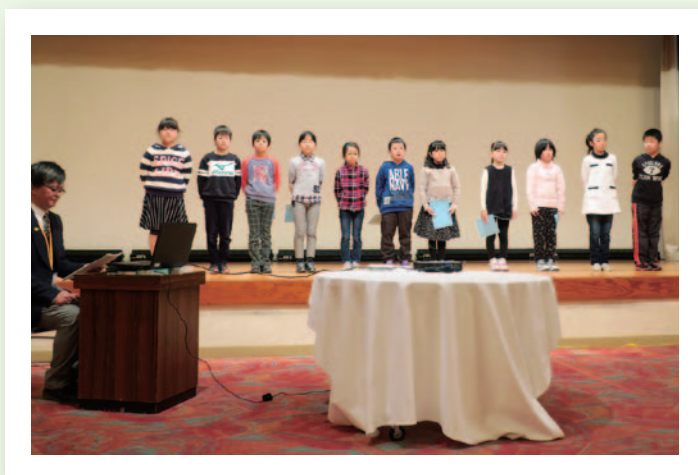
## 第1部「活動紹介」

### ❖ 「仁淀川とわたしたちの暮らし」 ❖

土佐市立新居小学校3年生

僕たちの通う新居小学校は、仁淀川が土佐湾に流れている下流の西側にあります。普段から仁淀川に遊びに行くこともなく、関わることもあまりありませんでした。去年の9月、石川先生と一緒に、僕たちは仁淀川に行きました。川で透明度を調べたり、水生生物を採ったりしました。カニやエビなど知っているものもあったけれど、初めて見るものや小さな生き物がいました。その生き物たちはきれいな水に住む生き物と教わり、この日の仁淀川は濁っていたけれど、仁淀川の水がきれいなことを教えてくれました。私たちは今まで仁淀川のことはほとんど知らなかったけれど、この学習を基に自分たちでテーマを決め、「仁淀川とわたしたちの暮らし」について、学んだこと調べたことを発表します。

私たちは9月27日に行った仁淀川の清流度調査についてまとめました。仁淀川に白と黒の的を入れ、その的がどこまで離れて見えるのかを調べました。白組の調査では、黒は2m40cmで、白は2m65cmでした。赤組では、黒は2m80cm、白は記録できませんでした。この日は大雨の後でしたが、このように遠くまでの的が見える仁淀川はやっぱり水がきれいだと思います。私は、仁淀川は普通の川と思っていたけれど、水に入って調べてみたり、写真を見たりして、きれいなことが分かりびっくりしました。



仁淀川にはたくさんのお名所がありました。1つ目は滝です。仁淀川にはたくさんのお滝があつて、きれいな水が流れ落ちています。2つ目は沈下橋です。沈下橋は、水の流れによつて橋が壊されてしまわないように、工夫されて作られているそうです。仁淀川にはたくさんのお沈下橋があります。仁淀ブルーという言葉は、仁淀川の水のきれいなことを表す言葉です。仁淀川は周りのお人々に大切にされているからこそきれいだと思います。

仁淀川で私たちが見つけた水生生物は、カワゲラ、カゲロウ、サワガニ、ヌマチチブなどです。これらの生物から清流度のスコアを計算してもらつと高い点になり、仁淀川は水がきれいだと分かりました。そして、仁淀川に住むこれらの水生生物は、水がきれいなことを表すだけではなく、仁淀川をきれいにしてあげていることも教えてもらいました。私は、この水生生物調査で初めて小さな水生生物を見ました。いろいろな特徴があつて、面白い形のお水生生物もいました。清掃活動に参加した時、たくさんのおごみが捨てられていることが分かりました。だから、水生生物がきれいにしてあげるからといつて、ごみを捨てないようにしたいです。

仁淀川では、カヌー、バーベキュー、紙のこいのぼり流し、清掃活動、お祭り、パラグライダー、ラフティングなどのイベントが行われていることが分かりました。紙のこいのぼりを川に流すのは、いの町のお紙づくりと仁淀川のきれいな水をみんなに知ってもらつのに、とてもいいイベントだと思います。仁淀川でカヌーをしたり、ラフティングをしたりすると気持ち良さそうだなと思いました。仁淀川で行われているイベントや行事を調べてみて、僕はこれだけたくさんのおイベントが行われているのは、仁淀川の水がきれいだからだと思います。仁淀川では、川に住む生き物を採ったり、水切りをしたり、泳いだりして遊ぶことができます。また、仁淀川にはコイ、ニゴイ、ウナギ、ナマズ、



アカザなどの魚がいることが分かりました。仁淀川の生き物を調べてみて、魚がいっぱいいて、変な名前の魚もいて、面白いなと思いました。これからは仁淀川の掃除をしたり、水を大切にしたりしていきたいと思います。

僕たちの住む土佐市やいの町では、紙を作っているところや紙工場がたくさんありました。これは仁淀川のきれいな水を使って、いい紙が作れるからだそうです。その他にもブタンジュース、しょうが製品、トマトソースなどが作られていることが分かりました。仁淀川の水を利用したものを調べてみて、これだけたくさんのものを、しかも、ここにしかないものがつくれて、すごいと思いました。

私たちは仁淀川の森と私たちの生活のつながりについて調べました。まず、私たちが毎日、当たり前のように使っている水は、仁淀川の水だということが分かりました。仁淀川の水はとてもきれいなので、くみ上げた水をろ過などせずに、消毒だけして、私たちの家に配られているそうです。仁淀川の水が私たちの暮らしに必要なだと分かったし、このきれいな水が私たちの健康にもつながっていることが分かり、新居に住んでいて良かったと思いました。また、私たちの住む新居にはたくさんのビニールハウスがあり、野菜づくりや花、果物づくりが盛んですが、その農業に使われている水も仁淀川からくみ上げられている水です。私は仁淀川の水のおかげで、野菜や花、果物が育っていることが分かり、この新居の近くに仁淀川があって良かったと思いました。次に、ろ過の実験をしました。ペットボトルの中にガーゼを入れ、小石、炭、砂を入れ、それに濁って汚れた水を入れてみました。下から出てきた水は、入れる前よりもきれいになって出てきました。では、このろ過は自然の中では何が行っているのでしょうか。調べてみると、それは森林でした。たくさんの木のある森の中で降った雨は自然にろ過をされながら、ゆっくりと地下に染み込み、汚れを落とし、きれいな水になって湧き出し、流れてきていることが分かりました。また、仁淀川の周りに住む人々や工場の人々が流す水をきれいにしたり、ごみを減らしたり、水を汚さないように、いろいろな努力をして、仁淀川の水を守ってきたことが分かりました。私は工場や仁淀川の周りに住む人々のおかげで仁淀川はきれいに保たれていると思いました。

最後に、私たちにできることを考えました。それは洗濯にお風呂の残り湯を利用すること。水を出しっぱなしにしないこと。川にごみを捨てないこと。生き物を大切にすること。生き物は捕まえてもいいけど、観察し終わったら、元の場所に返してあげること。川をきれいにする活動に参加することなどです。



今まであまり知らなかった仁淀川が私たちの暮らしとこのようにつながっていることが分かり、とてもすごいと思いました。なぜなら、仁淀川が近くにあったから、私たちの飲む水は少し消毒を加えるだけで、もう飲み水になっているのです。だから、私たちがこの仁淀ブルーを守っていかなければなりません。私たちにできることは全てやって、仁淀ブルーを守っていきます。

# ❖ 「昨年度のワークショップで出た意見について」 ❖

仁淀川清流保全推進協議会 事務局

高知県では、協働の川事業パートナーズ協定を「アサヒビール株式会社」、「高知食糧株式会社」、「有限会社高知アイス」の3社と締結しています。「アサヒビール株式会社」からは「元気な四国へ! さとあいプロジェクト」を行っていただき、仁淀川の清流保全に支援をいただきました。流域7市町村で構成する「仁淀川流域交流会議」では、この「アサヒビール株式会社」からの寄付金を活用して植樹活動や間伐事業、「仁淀川清流保全推進協議会」への助成事業を行っています。「高知食糧株式会社」では、県下全域の清流保全団体に公募しており、これまでに延べ46団体に助成していただいています。「有限会社高知アイス」からは、仁淀川流域の子どもたちの環境学習のためにという目的で当協議会に寄付いただいております。

当協議会の平成28年度事業では、新たな試みとして8月に親子を対象とした河口域ごみ分析勉強会を開催しました。また、10月22日には仁淀川の6会場において総勢408名により仁淀川一斉清掃を実施しました。

昨年度の仁淀川シンポジウムでは、「子どもたちを川に呼び戻す」と「美しい環境・景観の保全」のそれぞれのテーマで様々な意見があり、14個ずつの項目に取りまとめました。それぞれの項目に対する今年度の取り組み結果を報告するとともに、第2部で話し合う内容について説明しました。

**協働の川づくり事業 ～協定事例～**

<p><b>アサヒビール株式会社</b></p>  <p>アサヒスーパードライ対象商品1本につき1円を仁淀川流域の清流保全に寄付</p> <p style="text-align: center;">平成20年～</p>	<p><b>高知食糧株式会社</b></p>  <p>販売した無洗米“まんま炊つきー”1kgにつき1円を県下の清流保全活動団体に寄付</p> <p style="text-align: center;">平成23年～</p>	<p><b>有限会社高知アイス</b></p>  <p>高知アイス売店におけるソフトクリーム1本につき1円を子どもたちの環境学習のために寄付</p> <p style="text-align: center;">平成28年～</p>
---	---	---

協働の川づくり事業 ～協定事例～



仁淀川一斉清掃



環境学習



河口域ごみ勉強会

## 第2部「ワークショップ」

❖川の部(子どもたちを川へ呼び戻す)

### ～大人に川の知識(安全面)を持ってもらうには～

**ブース1** 参加者数9名

NPO法人環境の杜こうち **兼松 方彦** 理事長

によど自然素材等活用研究会 **井上 光夫** 代表

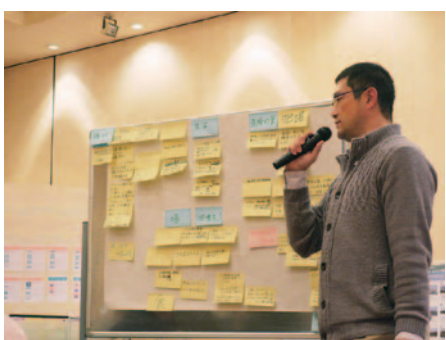


- ・楽しさの中に危険性も一緒にあることを大人に知ってもらう機会づくり
- ・流域の方々には、学校を通じて知らせ、流域外の人たちに対する知らせ方を考える
- ・(公財)四万十川財団の作った「かわがせんせい」の仁淀川版や物部川版の作成(川遊びの基本事項が整理されている)
- ・流域ごとの楽しみ方と危険性の情報提供(子どもたちは、安全だけでなく少し冒険ができる情報も欲しい)
- ・安全面の知識を知るだけでなく、自分の現在の力量(救助能力)を知ってもらうことが必要
- ・知識だけでなく、現場で体験をする機会づくりが必要
- ・現場で指導できるマイスターの養成(流域外から楽しみに来る方への指導)
- ・補償金の仕組みづくり(流域だけでなく、川を訪れた人から協賛をいただき事故に備える)
- ・高知県内にある川同士の横のつながりの強化。川同士で、情報交換しながらイベントや交流をすることで、高知の川のすばらしさを発信する

**ブース2** 参加者数10名

公益財団法人四万十川財団 **神田 修** 事務局長

仁淀川リバーキーパー **石川 妙子** 氏



- ・PTAの行事等や地域の地域行事の中で川遊びや安全など、遊び方について危険対策を実施
- ・危険箇所の把握及び地域の川の実態を知る(川遊びの前に)
- ・水難救助講習会の随時開設
- ・遊泳禁止区域や遊泳許可区域マップ、川での泳ぎ方マニュアルの作成
- ・安全体制の整理(ライフジャケットを貸してくれる場所の調査)
- ・学校、PTA、あるいは地域と連携した取り組みの促進(楽しさと安全対策)
- ・専門機関(RAC)による安全講習の活用(大人も学校も安全に川の行事ができる体制づくり)
- ・地域の川遊びや文化の部分の大人に伝える場の作成(長年地元に住んでいる方を講師とする)
- ・川に関わる団体が、地元で環境学習を実施する時に、同時に安全講習もしてもらう
- ・仁淀川清流保全推進協議会として、川で活動する団体とその活動内容の把握及びネットワークづくり
- ・行政として、川のきれいさ、生き物の豊かさを守っていくために必要な条例等の整備
- ・仁淀川流域交流会議に対して、各エリアの安全は各自治体が守れる体制を取るよう仁淀川清流保全推進協議会から要請することが必要



❖山の部(美しい環境・景観の保全)

## ～山の現状を知ってもらうには～

**ブース3** 参加者数8名

NPO法人環境の杜こうち **石川 貴洋** 事務局長

四国森林管理局 **横山 敬吾** 森林施業調整官



- ・四季を感じる雑木林への再生(人工林の皆伐後の森づくり)
- ・雑木林に触れる場づくりや情報発信の強化
- ・広葉樹林と針葉樹林の違いを見せるモデル林(それぞれの良さ、必要性を考えるきっかけにつながる)
- ・山の暮らしに家族で触れる体験の場づくり(親子で木を切る体験、それを使って薪を作る、たき火をする)
- ・雨が降ったときの川の変化から山の様子を学ぶ機会づくり(雨のときの川の変化を見せ、背後にある山の様子を考えてもらう)
- ・現場で活動している方々や異なる立場の方が自然に気楽に語り合える場づくり(山の現状を広く知ってもらう機会を提供できる)

**ブース4** 参加者数10名

森林総合研究所四国支所 **酒井 敦** 氏

高知県林業振興・環境部環境共生課 **三好 一樹** 課長補佐



- ・山に行って楽しいという体験を積んでもらう
- ・体験学習の場としての学校林(下刈り体験、間伐体験)の復活(学校教育の充実により、山の楽しさを子どもの頃から積み重ねていく)
- ・間伐ボランティアなどの実施(山に行くことで現状を認識できる)
- ・荒れた山と整備された山を両方見て実際に感じ取ってもらう機会づくり(間伐体験の時などに見比べてもらう)
- ・森の恵みである生態系サービス(水路保全機能、生物多様性機能)を身近に感じてもらう機会づくり
- ・山菜、キノコ、ジビエなど森林の生態系サービスをきっかけに、意義を知ってもらう
- ・若い人に知ってもらえるよう、SNS等の活用による情報発信の強化
- ・木へ親しんでもらえるような木の家づくり

## おわりに

今日の発表を受けて、川の近くで生活していても、子どもたちには仁淀川に触れる機会がないということに改めて感じました。子どもたちを川へ呼び戻すためにも、仁淀川清流保全推進協議会の活動はこれからも続けていく必要性を感じました。

ワークショップには、多数の方が参加くださり、色々な話が出て、盛り上がっておりました。仁淀川シンポジウムが、こういった多種多様な方々の知恵を集めて、仁淀川だけでなく、物部川、四万十川も含めた、川の抱える問題を解決する場になっていくことができたらと思っております。

仁淀川清流保全推進協議会 副会長 井上 光夫

### ❖シンポジウムに関するアンケート抜粋

- ・新居小学校の発表が良かった
- ・色々な意見が聞けた
- ・立場を超えた意見交換ができて良かった
- ・ワークショップの時間が短かった
- ・講師を招いて基調講演をしてほしい

## 当日の様子



アサヒビール株式会社



高知食糧株式会社



有限会社高知アイス



国土交通省



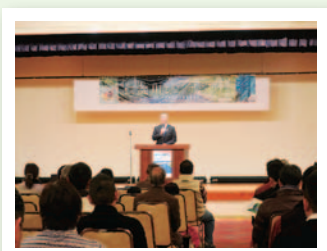
会長挨拶



仁淀川移動水族館



仁淀川の石



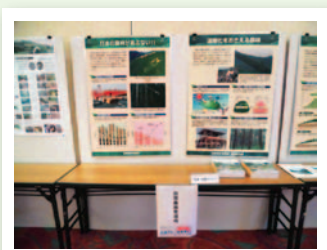
仁淀川流域交流会議 会長挨拶



NPO仁淀川お宝探偵団



株式会社西日本科学技術研究所



四国森林管理局



仁淀川清流保全推進協議会



## 第6回 仁淀川シンポジウム

# 仁淀ブルーを後世に ～知ってみよう！山と川

レポート



### ❖日時・会場

日時：平成29年2月4日(土) 午後1時から午後4時15分

会場：グランディール土佐市本店 参加者数：100名

### ❖主催団体等

主催：仁淀川清流保全推進協議会、高知県 共催：仁淀川流域交流会議

協賛：アサヒビール株式会社

### ❖テーマ「仁淀ブルーを後世に ～知ってみよう！山と川」

流域で清流保全活動に取り組まれる方々の交流の場として始まった「仁淀川シンポジウム」は、今回で第6回となりました。今年度は、昨年実施したワークショップで出た意見の中から実施できていない部分について、どうすればいいか皆様と意見交換を行いました。